

(1) 日本特許庁 (JP) (12) 公開実用新案公報 (U) (11) 対象新案出願公開番号 実開平7-5515  
 (43) 公開日 平成7年(1995)1月27日

(51) Int.Cl.* A 45 D 42/00 A 42/04 A 47 C 1/00 F 21 L 1/00	細別記号 E 2119-3B D 6308-3K R 8815-3K	府内整理番号 F 1	技術表示箇所
--	---	---------------	--------

(21) 出願番号 実開平5-47063 (71) 出願人 38003862  
 (22) (1) 国名 平成6年(1993)6月30日 (71) 考案者 田中 亘  
 (70) 考案者 田中 亘  
 東京都北区東和町3丁目1番2号  
 東京都北区東和町3丁目1番2号

(54) [考案の名称] 帯用照明つま機

(57) [要約]  
 (目) 従来の携帯用端は明るい場所でしか使用できなかつた。したがつて不適だった。それを、照明をつける事により、暗い場所でも使用できるので便利である。

(構成) 携帯用端の台座の部分に照明及び電池

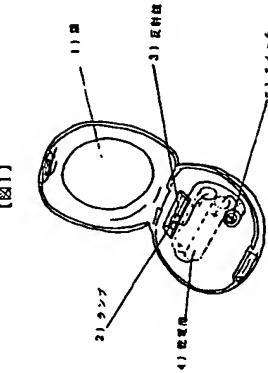
図を取り付けた。

## 【実用新案登録請求の範囲】

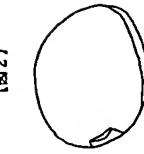
【請求項1】 線(1)に、対物をてらすための照明天ランプ(2)と、光をうまく対物に当てる様な反射鏡(3)と、乾電池(4)とスイッチ(5)を接続した携帯用照明ランプを提供する。

## 【図面の面別な説明】

【図1】



【図2】



【図 1】 本考案の使用状態の時の斜視図である。

【図 2】 本考案の折りたたんだ時の斜視図である。

【符号の説明】

1は鏡 2はランプ 3は反射鏡

4は乾電池 5はスイッチ

## 【手続補正書】

【提出日】 平成6年2月17日

【手続補正】 1

【補正内容】 明細書

【考案の名称】 携帯用照明つま機

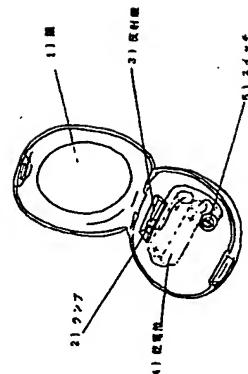
【補正対象項目名】 考案の名称

(54) [考案の名称] 携帯用照明つま機

(57) [要約]  
 (目) 従来の携帯用端は明るい場所でしか使用できなかつた。したがつて不適だった。それを、照明をつける事により、暗い場所でも使用できるので便利である。

(構成) 携帯用端の台座の部分に照明及び電池

図を取り付けた。



## 【考案の詳細な説明】

## 【0001】

## 【産業上の利用分野】

この考案は、対物を照らすための照明ランプをつけて、携帯用照明ランプ付鏡に関するものである。

## 【0002】

## 【従来の技術】

後者の携帯用鏡は対物を照らすための照明ランプは付いて無い。

## 【0003】

## 【考案が解決しようとする問題】

これは次のような次点があつた。

映画館や劇場では、感動したりして出来る涙のため化粧直しかが必要になるが、暗いので今までの携帯用鏡では対物を明確に見ることができなかつた。さらに、コンタクトレンズの修正は不要であつた。

本考案は、これらの次点を除くためなされたものである。

## 【0004】

## 【課題を解決するための手段】

鏡(1)に対物を照らすための照明ランプ(2)とランプの光を効率よく対物に当たる鏡の反射鏡(3)とランプを作動させるための充電池(4)と、それをON/OFFするスイッチ(5)を接続する。

本考案は以上のような構成よりなる携帯用照明ランプ付鏡である。

## 【0005】

## 【作用】

スイッチ(5)をONすると、照明ランプ(2)が点燈し、反射鏡(3)により対物を効率よく照らし、鏡(1)に対物が写る。

## 【0006】

## 【実施例】

以下本考案の実施例について説明する。  
鏡(1)に対物を照らすための照明ランプ(2)とランプの光を効率よく対物